



## 有害物質から子どもを守る会（秋田・宮城）

### 会報 No. 22 子どもへのコロナワクチン接種⑤

「ワクチン後遺症：自己免疫疾患について」（2022/12/25）

私はワクチン接種事業に遅れて登録した。しかし死亡例を経験し発熱などの副作用の多さに接種事業から撤退した。ワクチン事業に関する多数の情報や副作用にもう悩むことはなくなったものの、今はワクチン後遺症に悩む人々の相談にのっている。特に自己免疫性疾患は、接種の直後でなく、比較的日子数がたってから起こり、症状が複雑で診断が難しいと感じている。ここに数例だが自験例を紹介する。

#### 症例1. ワクチン接種後の関節リウマチの発症：

知人の49歳女性。24歳から甲状腺機能亢進症で今は経過観察中。34歳の時、湿疹用のアンダーム軟膏を使用し、重症の接触性皮膚炎を起こした。コロナワクチンは接種しない方がよいと助言してあった。2021年4月末、左下肢、次いで左上肢に関節痛と筋肉痛が起こり、背中と右足にも。5/2に37.2度、5/3～右上肢の痛み、次いで左下肢にも起こった。5/14に仙台の脳神経専門病院を受診し、「ギランバレー症候群疑い」、翌月「Q熱（ネコから感染）疑い」と言われ、ミノマイシン服用。9月には症状は自然消失。

彼女の娘さんが中学で運動部の練習があり、親たちも送迎で一緒に自家用車に乗るので、新型コロナを恐れ、11/7にワクチン1回目を接種。翌日夕方から右手首の関節痛。1週間後、同部位に激痛。仕事を休み、11/17前記の脳神経病院へ。関節炎と言われ治療はなし。そのあと、小生の医院で採血し、抗CCP抗体（関節リウマチの早期に陽性化）が陽性。痛みが他の関節へ移動し、12月中旬に東北医科薬科大学病院のリウマチ科を受診。コロナワクチンのことを申告したが医師はコメントせず。たまたま痛みがひどいとボルタレンを頓服し、有効であった。両手首と両肩、両足底の痛みが続いたので、開業医の整形外科を受診。関節リウマチと診断され、ステロイド（プレドニン）5mgとサラゾスルファピリジン4錠（朝2夕2）を2/9～服用。このころ生理が止まった。徐々に関節症状は軽快。両足底の痛みと違和感が残り、それも2022年4月中旬から軽減。少し腫れていた甲状腺腫が縮小した。現在、ステロイド2mgとサラゾスルファピリジン4錠で治療継続中。関節痛はないが体の広範囲に湿疹と掻痒感がある。11月からステロイドは1mg/dayとなって経過観察中。

#### 症例2. 関節リウマチ治療中のワクチン接種による血小板減少症：

ワクチン後遺症の学習会（2022/4/27「有害物質から子供を守る会」宮城県大崎市）に、慢性関節リウマチの治療中、ワクチン接種を受けた中年女性が参加し、相談を受けた。ワクチン接種後、血小板減少症を来したという（1立方ミリ約1万）。関節リウマチの治療を受けていた診療所から病院・血液内科に紹介され、検査を受けたところ、骨髄の巨核球（血小板を産生）に異常はなく、血小板の消費亢進による血小板減少症と説明され、ステロイドによる治療を勧められた。ステロイドの副作用に対する恐怖心があり、治療が始まると精神的な不安・動揺が強く、減量してもらい、どうにかステロイド治療を続けた。血小板は現在約3万で推移している。

#### 症例3. ワクチン接種による肝障害：

39歳女性。既往歴としては、時々、喘息様気管支炎。2021年のワクチン接種前に、整形外科に通院し、加味逍遙散、葛根湯、ノイロトロピン、エベリゾンの服用と、心療内科でアリピプラゾール、ラモトリギン（抗精神薬）の服用が続いていた。

コロナワクチン接種は、①2021/7/11 ②2021/8/1 ③2022/2/26 3月になると、だるさが酷くなり、採血（東北医科薬科大）。GPT:800位で「薬剤性肝障害」と診断された。この時点で薬剤は中止。7/26小生の医院を受診して採血。GPT 216 GOT 97 WBC 3900 CRP 1.19 8/1に再度採血。GPT 132 GOT

50 となり、症状は消失した。(3回目ワクチン接種後の急な発症なので薬剤性ではなく、ワクチンによる肝障害ではないかと考えられるが、自己抗体の検査は不覚ながらしなかった。)

### <コロナワクチンによる自己免疫疾患の多発は隠蔽されていた>

ファイザー社の75年間非公開予定だった市販後調査データが、米国テキサス州における裁判の結果、FDAが敗訴し、45万ページの資料の公開が命ぜられた。この中にファイザー社が緊急承認許可に使った108日分(2020年12月1日から2021年2月28日)の市販後調査で、63か国から42,086件の副反応、1,223人の死亡、後遺症を残した520例が含まれ、40種類を超える自己抗体の出現と、37種類の自己免疫疾患が記載されていた。日本では2021年2月14日にファイザー社のワクチンが正式承認。2月14日から国内で、まず医療従事者への接種が開始された。

2022年3月29日、参議院厚生労働委員会において川田龍平議員が、米国における上記の裁判結果と情報開示のことを質問した。それに対して、厚生省側はその事実を知っていたと述べた。ファイザー社と厚労省の幹部はこれらを知っていたにも関わらず、「副反応が起きても製薬会社に責任は問わない」という条件をつけて特例承認を行った。この条件付けはファイザー社の契約違反、つまりファイザー社は副作用に賠償責任を持つことを意味するのではないかと。同様の契約で日本政府は合計2兆4000億円をメーカーに支払ったのである。

ともあれ、新型コロナウイルスのスパイク蛋白に対する抗体はヒトの各種組織抗原と交差反応を示すことは明らかで、接種後の自己免疫疾患の発症は起こり得ることなのである。(追記：ファイザー社はワクチン以外の殆どの製品の製造・販売について、ファイザー・アップジョン事業部をマイラン製薬と合併させて作った新会社VIATRISに移管した。発表：2020/11/17)

### <自己免疫疾患とは>

原因：体内の特定組織のタンパク質が変質して異物として認識されてしまうケースや、タンパク質の構造が似ているため誤って攻撃してしまうケースや、免疫機能に何らかの障害(T細胞の異常)が起きているケースなどが考えられている。疾患の数は下左の表のように非常に多く、診断には下右のように多数の検査がある。

全身性自己免疫疾患

関節リウマチ、悪性関節リウマチ、フェルティール症候群、若年性特発性関節炎、成人スチル病、強直性脊椎炎、SAPHO症候群、高安動脈炎、巨細胞性動脈炎、結節性多発動脈炎、多発血管炎性肉芽腫症、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症、顕微鏡的多発血管炎、IgA血管炎、クリオグロブリン血管炎、全身性エリテマトーデス、全身性強皮症、多発性筋炎、皮膚筋炎、混合性結合組織病、シェーグレン症候群、ベーチェット病

臓器特異的自己免疫疾患

ネフローゼ症候群、潰瘍性大腸炎、クローン病、自己免疫性肝炎、原発性胆汁性胆管炎、特発性間質性肺炎、乾癬、天疱瘡(尋常性天疱瘡、水泡性類天疱瘡)、重症筋無力症、多発性硬化症、視神経脊髄炎、ぶどう膜炎、強膜炎

### 診断に用いられる検査項目

CRP：炎症一般で↑  
LE細胞：SLEで出現  
RF定量：RAで↑  
抗CCP抗体：RAで↑  
抗核抗体(RNP、Sm、SS-A、SS-B、CENP-B、Scl-70、Jo-1、dsDNA、ssDNA、リボゾーマルP、PM-Scl、PCNA、Mi-2、フィブリラリン、抗DNA抗体)：  
各種自己免疫疾患で↑  
抗好中球細胞質：ウェゲナー肉芽腫症で↑  
抗Jo-1抗体：筋炎、皮膚筋炎で↑

### <感想>

今、幼児・小児へのワクチン接種が進められており、日本はコロナ騒動の危機的な状況にあると思います。次回にはデマ、陰謀論とされている不妊症について調べて報告します。(文責：加藤純二)

